

今どきの電子決済とは？

駅の改札やコンビニ、スーパーのレジなどで電子決済をする光景が珍しくはなくなり、カードをあてるだけで電車に乗ったり、買い物できる電子決済は大変便利なものです。しかし、紛失した場合の補償の有無などに注意も必要です。今回は電子マネーを中心にその種類や仕組み、利用上の留意点を紹介していきます。

電子決済とは？

電子決済とは、現金を使わずに電子的媒体や手段を利用して商品やサービスの対価を支払う方法の総称です。ICチップを埋め込んだカードや決済機能のついた携帯電話、インターネットを使うものなどがあります。

とくにこの10年間はコンピュータとインターネットの普及で、電子決済は急速に発展し、多くの人が日常的に使えるようになり、私たちの生活に深く浸透するようになりました。代表的なものとしては、

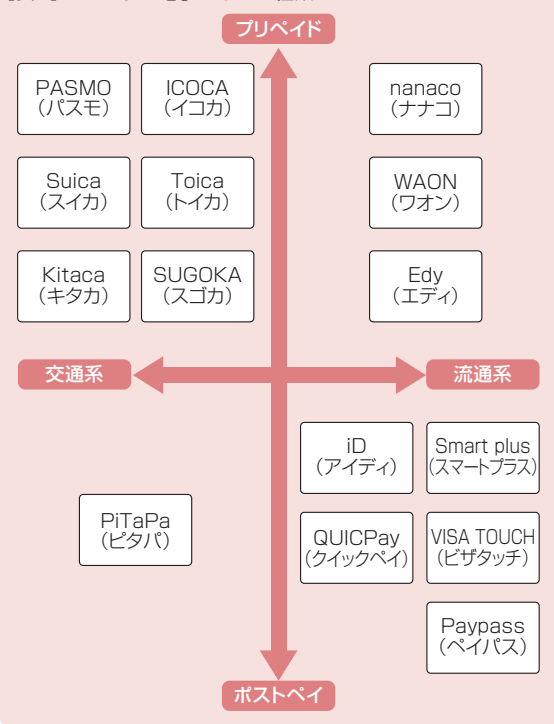
- ・ クレジットカード
 - ・ 電子マネー（プリペイド型）
 - ・ 電子マネー（おさいふケータイ、ポストペイ型）
 - ・ サーバー型電子マネー
 - ・ デビットカード
- などがあります。

電子決済は便利なものではありますが、間違った知識をもって対処すると、経済的な被害に遭わないとも限りませんから、十分な注意が必要です。

電子マネーの登場

最近、脚光を浴びているのが電子

【表1】ICカード型電子マネーの種類



●執筆者

岩田 昭男

いわた・あきお

1952年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。同大学院修士課程修了。月刊誌記者を経て、現在、流通、クレジットカード、電子マネーに強いジャーナリストとして活躍中。著書に『「信用偏差値」あなたを格付けする』（文春新書）、『「信用力」格差社会』（東洋経済新報社）、『電子マネー最終戦争』（小社刊）など多数。

マネーです。電子マネーとは、硬貨や紙幣を使わずに、金銭的な価値を持った電子的なデータをやりとりする新しいタイプのお金です。

電子マネーには、ICチップにバリュー（金銭的な価値）を入れてやりとりをするICカード型とインターネットの中でやりとりするサーバー型があります。

最近急速に普及しているICカード型の電子マネーは、ICチップにバリューをチャージすることで、繰り返し利用できるのが特徴です。日本では、フェリカ(Felica)と呼

ばれる非接触ICカード技術を使ったタイプが主流で、読取機にかざすだけで、決済や改札入場などを行ってくれます。

代表的なICカード型電子マネー

日本で最初のICカード型の電子マネーは、2001年11月に誕生したエディでした。それ以降、普及したICカード型の電子マネーは、スイカ、パスモ、イコカ、トイカ、ピタパ、ナノコ、ワオン、アイディ、クイックペイ、ビザタッチ、ペイパス、キタカ、スゴカなどがあります。

特に、パスモ、ナノコ、ワオンの相次ぐ参入で主要な電子マネーが出揃い、電子マネーの存在が全国的にも知られるようになった2007年は、「電子マネー元年」と呼ばれますが、それ以降、電子マネー決済が急増しました。

これら電子マネー「表1」は、精算方法から、事前に現金をチャージしておく「プリペイド型」と支払いは利用後という「ポストペイ型」の二つに分けることができます。また、利用の仕方からは、交通系と流通系に分かれます。交通系は、電車の乗車券として使われていたものが、駅チカ、駅ナカ、あるいは沿線の店など

で買い物もできるようにサービスが拡充されてきました。最近はそのそれぞれの地区の交通系電子マネーが相互利用できるようになり、利用範囲が全国的に広がっています。一方、流通系は、大手流通グループが顧客基盤を固めるためにサービスを提供しており、入会するだけでポイントがたまると等のキャンペーンによって利用件数が伸びています。

最近の傾向

の地区の交通系電子マネーとの相互利用を実現しました。その結果、スイカを一枚持っていれば、JR西日本のイコカ、JR東海のトイカ、JR九州のスゴカ、JR北海道のキタカのエリアで乗車できるようになり、他地区の駅チカ、駅ナカのキオスクなどで電子マネー機能を使って買い物もできるようになりました。相互利用ですから、イコカ、トイカ、スゴカ、キタカで、首都圏のJRを利用することもできます。

日本銀行決済機構局の調べによると、電子マネーの発行枚数は、2009年3月末には1億503万枚に達しました。発行枚数の増加とともに読取機の台数も増え、各電子マネー陣営は利用できる店舗やチャージに使えるクレジットカードを増やすなど、利便性を向上させることで、さらなるユーザー増と利用機会の増加を図っています。また、複数の電子マネーに対応した自動販売機やコインパーキングなど、電子マネーが利用できる場面も着実に広がっています。

交通系電子マネーでは、首都圏を中心に、JR東日本が発行するスイカと関東私鉄のパスモの相互利用が進んでいます。今年に入るとスイカは、全国のJRのほとんど

さらに、最近では、クレジットカードと電子マネー両方の機能を持ったカードが増えています。例えば、航空会社、量販店、銀行、専門店などと提携したスイカ付きクレジットカードがたくさん発行され、便利に使われています。パスモは百貨店との提携カードが多くみられます。こうした動きは、カードの枚数をなるべく減らしたい、入金(チャージ)もクレジットカード機能を使って手軽にオートチャージで済ませたい、という消費者のニーズを受けたもので、今後、さらに広がっていくと考えられます。また、交通系電子マネーの相互利用がさらに進むことも確実でしょう。全国どこでも一枚のカードで行けて、買い物もできるという時代もそう遠くはないかもしれません。

[表2] 電子マネーの発行枚数の推移

	発行枚数 〈万枚〉	端末台数 〈万台〉	
		うち携帯電話	
2007年9月末	6,649	767	24.7
2008年3月	8,061	942	35.8
9月	9,308	1,078	39.3
2009年3月	10,503 (+30.3%)	1,205 (+27.9%)	48.0 (+34.1%)

()内は前年比
「最近の電子マネーの動向について(2008年度)」日本銀行決済機構局

**おサイフケータイを
使ったサービス**

おサイフケータイも徐々に普及
しています。おサイフケータイは使
利なツールで、プリペイド型電子マネー
だけでなく、ポストペイ型も入れる
ことが可能です。

このほかにケータイを電子決済
用の専用端末にかざせば、ポイント
が貯まるというサービスもよく見る
ようになりました。何枚もあるポイ
ントカードを携帯電話ならひとつ
にまとめることができるといった手
軽さが受けているようです。

これまでおサイフケータイを使った
ことがない人が、これから使おうとす
るときには、どうすればいいのでしょ
うか。まず、フェリカ(Felica)
を搭載した携帯電話が必要です。ポ
ダイの裏面に小さなフェリカのマーク
が入っていることを確認してください。

それから利用したい電子マネーの
アプリ(特定の目的のために作られ
たソフトウェア)を設定します。既に
携帯にインストールされている場合
もありますが、たいていは、インターネッ
トに接続して、設定に必要なファイ
ルをダウンロードする形になります。
その後、登録に必要な個人情報
を書き込みます。プリペイド型電子

マネーの場合は、入金(チャージ)の
方法について、クレジットカードを利
用するのが銀行振替にするのなか
どを選択します。一方、ポストペイ
型電子マネーでは、まず最初にクレ
ジットカード会社に連絡して、許可
を得てから利用が可能になります。

サーバー型電子マネー

サーバー型電子マネーは、バリュー
をICチップの中ではなく、電子マ
ネーのサービス提供者が用意す
るサーバーに入れて管理・保護する
もので、ネットマネーとも呼ばれま
す。オンラインゲーム、音楽や映像
のコンテンツ購入などで、ICカー
ド型電子マネーが普及する以前か
らサービスが開始されていましたが、
利用場所がネット上に限られるため
発行額の規模はICカード型電子
マネーに比べれば小さいものでした。
しかし、最近のインターネットショッ
ピングの増加に併せて、サーバー型
電子マネーも着実に増えており、
2010年度の発行額は前年度の
1.5倍になる見込みです。

主なサーバー型電子マネーとして、
ウエブマネー、ビットキャッシュ、ネット
キャッシュ、ちよコムなどがあります。
前三者は、お金を払うと十数桁の
英数字またはひらがなからなる

[表3] ICカード型電子マネーの主要規格

* 公表データなし。または、設定なし

名称	Edy	Suica	PASMO	nanaco	WAON	Toica	ICOCA	iD	QUIC Pay	VISA TOUCH	PiTaPa	Paypass
運営主体	ビットワレット	JR東日本(交通系)	パスモ(交通系)	セブン&アイホールディングス	イオン	JR東海(交通系)	JR西日本(交通系)	NTTドコモ	JCB	VISAインター、三菱UFJニコス	(株)スルッとKANSAI	オリコなど
開始時期	2001年11月	2001年11月	2007年3月	2007年4月23日	2007年4月27日	2006年11月	2003年11月	2005年12月	2005年4月	2004年12月	2004年8月	2006年4月
入金上限	5万円/オートチャージあり	2万円/オートチャージあり	2万円/オートチャージあり	2万9999円/オートチャージあり	2万円/オートチャージ 夏から実施予定	2万円/オートチャージなし	2万円/オートチャージはないが クイックチャージあり	*	*	*	2万円/オートチャージあり	*
利用限度/1回あたりの利用額	*	*	*	*	*	*	*	親カードの利用限度額内		オフライン利用枠: 最高3万円 1回あたりの利用金額: 最高2万円	親カードの利用限度額内 ●ショッピング 1日3万円まで 1か月で5万円 ●交通 1か月15万円まで(定期は 20万円まで)	親カードの利用限度額内
ポイント還元	カードや利用店により異なる	07年6月から加盟店でスイカポイントを開始	カードや利用店により異なる	100円で1ポイント(還元率は1%)	200円で1ポイント(還元率は0.5%)	なし	独自ポイントはなし	親カードのポイントに準ずる	親カードのポイントに準ずる	親カードのポイントに準ずる	ショップDeポイント 100円=1P 500P=50円 換算で交通費を割引	親カードのポイントに準ずる
媒体	カード、携帯電話(ソフトバンク)	カード、携帯電話(ドコモ、au、ソフトバンク)	カードのみ	カード、携帯電話(ドコモ、au、ソフトバンク)	カード、携帯電話(ドコモ、au、ソフトバンク)	カードのみ	カードのみ	カード、携帯電話(ドコモ)	カード、携帯電話(ドコモ、au、ソフトバンク)	カード、携帯電話(ドコモ、au、ソフトバンク)	カードのみ	カードのみ
発行済み枚数	5650万枚(10年4月1日)	3163万枚(10年3月末)	1515万枚(10年4月末)	1000万枚(10年3月末)	1340万枚(10年2月末)	88万枚(10年3月末)	537万枚(10年4月末)	1444万枚(10年4月末)	486万枚(10年3月末)	約110万枚(10年4月末)	174万枚(10年5月末)	*
加盟店舗数	18万4000店(10年4月1日)	バスモとの合算で8万9350店(10年3月末)	7万4000店(10年4月末)	3万5498店(10年3月末)	5万5000店(10年2月末)	7万1000店(10年4月末)	7万5150店(10年4月末)	44万4000台(10年4月末)	24万2000台(10年3月末)	約7万7000台(10年4月末)	1万8000店(10年5月末)	*

※2010年5月末までの情報を可能な限り折り込んでいますが、今後変更される可能性もあります

その他の電子決済ツール 〈デビットカード〉

デビットカードはクレジットカードと同じく手持ちのカードで買い物ができる仕組みですが、クレジットカードとは異なり、代金は預金口座からほぼ即時に引き落としとなります。日本では、Jデビットが10年前にスタートしましたが、今ではほとんどの銀行が採用しています。VISAデビットのように国内外の店舗で利用できるデビットカードの普及も進んでおり、将来性のある決済ツールとして期待されています。クレジットカードのような事前審査が不要で、プリペイド型電子マネーのように、事前にチャージする必要もなく、手軽に利用できるという特徴もあります。

IDが付与され、ネット上での決済の際は、このIDを入力して、代金を支払います。ちよムの場合、あらかじめネット上に開設した貯金箱にチャージしておき、買い物の際に、その貯金箱から代金を支払います。

電子マネーのポイント

クレジットカードと同様に、電子マネーにもさまざまなポイントサービスが提供されています。ここでは、プリペイド型電子マネーを例にポイント制の特徴をみていきましょう。プリペイド型の電子マネーで貯まるポイントには2種類あります。買い物時に電子マネーの中に直接貯まるものと、クレジットカードでチャージしたときにつくポイントです。後者の場合、クレジットカード側にポイントが貯まる仕組みになっています。通常、ポイントサービスは、自社

の商品やサービスの利用促進を目的として提供されますが、エディでは、電子マネーを提供するのみの中立的な存在であるため、貯めるポイントを提携先の中から利用者が選ぶことができる仕組みが用意されています。ナナコやワオンでは、ポイントが貯まる場所が自社の関連店舗に限られている反面、特定の店舗で特定の商品を購入すると、通常のポイントに加えてボーナスポイントが付与されるなどの特典が提供されています。

無記名式と記名式

ICカード型の電子マネーには、無記名式と記名式があります。代表的な電子マネーでみると、エディはすべて無記名式ですが、スイカをはじめとする交通系電子マネーとワオンは無記名式と記名式の両方があり、ナナコはすべて記名式です。無記名式の場合は、最初に「デポジット」という形でお金を払えば、他の面倒な手続きもなくカードを発行してもらえます。とにかく早くカードが欲しいという場合は、無記名式が便利です。ただし、後述するように紛失・盗難にあつても原則補償はありません。一方、記名式の場合は、カードを申し込む際、自分の名前、住所、年齢などが必要になりますが、盗難・紛失の際の補償があります。

電子マネーを失くしたときの補償

無記名式と記名式はよく用途とリスクを吟味して選びましょう。

電子マネーを失くしたときの補償がどうなっているのかは、とても気になることです。実際、電子マネーの利用に関する要望事項について尋ねたところ、「盗難や紛失にあつても補償が受けられること」との回答が最も多いという結果が出ています（「生活意識に関するアンケート調査」―平成22年3月調査―日本銀行情報サービス局）。

エディは、紛失・盗難に遭つても原則補償はありません。エディを除くプリペイド型電子マネーの場合は、発行会社によって本人確認ができる記名式であれば、補償を受けられます。同じ電子マネーでも無記名式の場合は補償を受けられませんから注意してください。また、補償される残額にも注意が必要です。発行会社に紛失した旨を連絡し、実際にカードが利用停止になった時点での残額となります。具体的には、（記名式の）スイカ、イコカのケースでは、駅の窓口に行き紛失・盗難した旨を通知します。そうすると、駅員がその場で電子マネーを即時

電子マネーの利用者保護

プリペイド型電子マネーは、これまで法律*で規制され、電子マネー事業者は、発行額の半分を国に供託するように義務付けられるなど、プリペイド型電子マネーを利用する消費者の保護が図られていました。一方、サーバー型電子マネーに関しては、規制の対象外だったため、例えば、電子マネーの運営業者が経営破たんしてしまうと利用者の手元には何も残らないなど、利用者保護の面で遅れが目立っていました。また、匿名性が高く、不正な資金をネット上に隠すための手段に使われる危険性も指摘されていました。しかし、今年から、サーバー型電子マネーの運営業者も規制対象となり、金融庁への届け出や発行したサーバー型電子マネーの未使用分の半額を供託するように義務付けられる方向です。若者層を中心にすそ野が広がっているサーバー型電子マネーですが、利用する際には、こうした背景にも留意して、慎重に利用することをお勧めします。

*プリカ法：前払式証券の規制等に関する法律。なお、プリカ法は、昨年成立した資金決済法に含まれることとなりました

電子マネーは、現金による入金手続きが省けて便利な一方、怖い面もあります。落とした場合にオートチャージ設定にしていると、お金をどんどん使われて被害が大きくなります。一刻も早く発行者に連絡して機能を中止させてください。

一方、ポストペイ型電子マネーは、紛失・盗難で不正に利用された場合、クレジットカードと同様、届け出日の前後60日間が補償の対象期間となります。紛失・盗難の際にプリペイド型よりも強みを発揮するといえるでしょう。

最近増えてきたオートチャージ(レジット機能)を利用した自動入金) 電子マネーは新たに普及してきた決済手段ですが、若者だけでなく高齢者にとっても心強い味方となります。交通系電子マネーでは、あらかじめチャージしておけば、券売機に立ち寄る必要がなくなり、目的地までの運賃を調べる手間が

電子マネーを賢く使おう

は、現金による入金手続きが省けて便利な一方、怖い面もあります。落とした場合にオートチャージ設定にしていると、お金をどんどん使われて被害が大きくなります。一刻も早く発行者に連絡して機能を中止させてください。

省け、改札でタッチするだけなので釣銭を扱う煩わしさがなくなりま

す。最近では、電子マネーが使えるタクシーも増えてきました。降車の際、サインすら不要なのが便利です。 独りぐらしの方には、毎月の利用額を電子マネーにあらかじめ入れて、買い物をするという使い方をすると、家計管理が簡単にできて便利です。 電子マネーは今や日常生活になくてはならないコンビニにも普及しています。自分がよく行くコンビニではどの電子マネーが使えるかを把握して、電子マネーを選ぶのも良いでしょう。現時点では、エディが最も多くの種類のコンビニで利用できますが、流通系、交通系含めて、コンビニで利用できる電子マネーが着実に増えています。 流通系電子マネーでは、セルフ型のレジで買い物するとポイ

[表4] 電子マネーの補償の有無

電子マネーを失くしたとき(カード)		おサイフケータイを失くしたとき	
Edy	原則補償なし	Edy	原則補償なし
Suica	記名式は補償、無記名は補償なし	Suica	すべて補償
PASMO	同上	nanaco	すべて補償
ICOCA	使用停止手続き後の残額などにより再発行	iD	届け出前後60日間が補償対象期間
Toica	補償なし	QUICPay	同上
PiTaPa	使用停止手続き後は補償	VISATOUCH	同上
nanaco	すべて補償		
WAON	記名式は補償、無記名は補償なし		
iD	届け出前後60日間が補償対象期間		
QUICPay	同上		
VISATOUCH	同上		

*それぞれに多様な種類がありますので、必ずご自分のご利用カードを利用会社のホームページなどでご確認ください